

平成22年度 第41回千葉県中学校バスケットボール新人大会 総評

千葉県小中学校体育連盟主催、千葉日報社他後援の第41回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は11月7日(日)、13日(土)、14日(日)の3日間、サウンドハウス・スポーツセンター フィットネス・アリーナをメイン会場とした5会場で、行われた。

男子のベスト4には、シードから順調に勝ち上がってきた八千代松陰中(八千代)、緑が丘中(千葉)、銚子四中(東総)と8シードからの辰巳台中(市原)が出そろい、準決勝は八千代松陰中对辰巳台中と、銚子四中対緑が丘中の対戦カードとなった。両カードとも、速いリズムのゲームが展開され、県大会最終日にふさわしい白熱したゲームとなった。そして、決勝戦には八千代松陰中と緑が丘中が勝ち進み、共に初優勝をかけた戦いとなった。

決勝戦は八千代松陰中がオールコートマンツーマンディフェンス、緑が丘中学校がハーフコートゾーンディフェンスでスタート。緑が丘中は青木がオフェンスの軸となる。八千代松陰中は巧みなパス回しから安定したシュート力をみせ加点する。互いに一進一退の攻防が続き、前半を28対26、八千代松陰中が僅か1ゴールリードで折り返す。後半に入り、八千代松陰中はディフェンスのプレッシャーを強め試合の主導権を握る。緑が丘中も大野や本間のアウトサイドで対抗するが、次第に点差が開いていく。八千代松陰中は水島がゲームを上手くコントロールし、大橋、工藤らがインサイドであわせて得点を伸ばす。5人全員で走りきった八千代松陰中が、追いすがる緑丘中を振り切り、初優勝を飾った。

一方女子の準決勝の組み合わせは昭和学院中(市川・浦安)対前原中(船橋)と、鎌ヶ谷二中(葛南)対船橋中(船橋)の対戦カードとなった。ベスト4に入るまでには僅少差の試合も多くあり、今年度は各支部の実力が伯仲していて、今後の大会でも熱いゲームが期待できそうである。そして決勝には、県新人戦4連覇を狙う昭和学院中と、準決勝の要所でシュートを決め接戦をものにした船橋中が進出した。

決勝戦は昭和学院中がオールコートプレスからハーフコートマンツーマンディフェンス、船橋中はハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。昭和学院中は赤穂のポストプレイやターンオーバーからの速攻などで着実に得点する。一方船橋中は厳しいディフェンスを突破しながらドライブを仕掛けるもなかなかゴールが決まらない。後半になり船橋中小林・渡部のシュートが決まりだし、漸く自分たちのリズムでゲームを展開し始める。しかし、終始インサイド・アウトサイドを絡めた着実なプレイをした昭和学院中が4年連続14回目の栄冠に輝いた。また敗れはしたものの、船橋中の果敢に攻める姿勢には、次回大会でも好ゲームを期待させるものがあった。

今大会では新人戦ということもあり、試合を重ねていくごとにすばらしいプレーが多く見られるようになってきた。春の選手権までの約6ヶ月の間に、選手達がどれだけ成長するのかがとても楽しみである。

最後になりましたが、TO指導や会場準備など、開催地区である印旛支部の役員や関係者のご尽力により大会を無事終えることができました。また、今大会では5会場に渡り体育館を使用させていただき、すばらしい環境の中で大会運営が行えました。心よりご協力に対し感謝いたします。

文責 県中体連バスケットボール専門部
報道部 大橋 哲治(平川中)